

新潟をひとつにするのはスポーツだ

定価850円

NIIGATA Sports Magazine

新潟スポーツスタンダード
マガジン

S

Standard

2019 February-March

2・3月 Vol.3

柔道・剣道
いざ全国舞台へ
新潟県大会リポート

Standard Eyes
新潟から
未来を創れ

最新 開幕直前特集

アルビレックス新潟
2019シーズン

NIIGATA
新潟

新潟バレーボール特集

明日に向かって
打て!

新潟県高校新人バレーボール大会出場

男女60チーム
紹介

復活の魂

野澤洋輔
加藤大
早川史哉
片渕浩一郎
是永大輔

2019シーズン
選手・スタッフ
名鑑



復活の魂

- 004 最新開幕直前特集・2019シーズン
アルビレックス新潟
- 006 J1昇格の想いをひとつに
 アルビレックス新潟キーマンに聞く 1
野澤洋輔 / 加藤大 / 早川史哉
- 014 **2019シーズン選手・スタッフ名鑑**
- 032 J1昇格の想いをひとつに
 アルビレックス新潟キーマンに聞く 2
 監督 **片渕浩一郎**
 代表取締役社長 **是永大輔**
- 040 **柔道・剣道 いざ全国舞台へ**
 全国高等学校柔道選手権大会新潟大会
 全国高等学校剣道選抜大会新潟県予選会
- 048 新潟バレーボール特集
明日に向かって打て!
 新潟大学 / 新潟医療福祉大学
 新潟教員バレーボールクラブ / ベスピアス新潟
 中之口中学校 / ウルトラヴィクトリーズ
 寺泊ジュニアバレーボールクラブ
 上越マリンドリース
- 061 高校バレーボールキープレーヤー
 上越総合技術高校 / 巻高校 / 新発田中央高校
 東京学館新潟高校 / 新潟青陵高校 / 北越高校
 中越高校 / 長岡商業高校
- 070 新潟県高校新人バレーボール大会出場校
男女60チーム選手名鑑

- 084 Standard Eyes
 古俣潮里 (フェンシング)
 中村美樹 (アーチェリー)
 出来島桃子 (クロスカントリースキー、バイアスロン)
 志村成琉 (エアライフル)
 - 095 We are アルビレックス
 アルビレックス新潟レディース
 監督 **奥山達之** インタビューほか
 - 104 NIIGATA SPORTS FLASH
 第1回全国ジュニアバスケットボール選手権
 新潟県予選会リポート
- 連載
- 001 S-motion
 MADONNA (MADOKAダンススクール) / 片桐悠
 - 083 Athlete FILE
 アルビレックスジュニアチアリーダーズ
 - 105 I LOVE SPORTS
 - 108 次号予告

クルマがもらえる コミコミリース!!

新車が 月々 10,800円~ (税込)

※契約期間満了時に車両引き渡し。※リース内容については店頭で詳細を確認下さい。※画像はイメージです。

COCO SELECT 長岡店 新潟店 上越4WD専門店

ココセレクト 検索

営業時間 / 9:00~18:00 定休日 / 毎週火曜・第3月曜 <http://www.cocoselect.jp>



13歳で世界選手権3位の最年少記録
 BMXフラットランド界期待の中学生

片桐悠 (かたぎり ゆう)
 BMXフラットランドライダー
 2005年4月生まれの中1年、長岡市出身。BMXショップを経営する父と、幼少からBMXを乗りこなす歳年上の兄・亮りょうに囲まれ「気が付いたら既にBMXがあったし、それが普通だった。今は、遊びよりもゲームよりも、とにかくBMXに乗ることが喜びで楽しみだ」というフラットランドの世界に入ったのは7歳の頃。そのわずか2年後、初出場した全国大会の中学生の中心に立つ。客観的思考に軸足を置いた練習で難関の高い技を次々と身に付け、オリナリテイを探索。そのハイレベルな演技は、昨年ドイツで開催されたBMXフラットランド世界選手権BMXCOIONE(ケルン)の聴衆に熱狂を巻き起こすことになった。なおこの大会、兄の亮も同クラスを予選1位で通過し、片桐兄弟の名を世界に知らしめた。

B MX競技には、タイムを競う「レース」と技で勝負する「フリースタイル」がある。そのフリースタイルの1つ「フラットランド」の世界選手権で快挙を成し遂げた片桐悠の練習は、まさに知的作業。「どうすれば操れるのか、なぜ失敗するのか」を常に考え、車体の姿勢、身体のキレ、視線、腕の角度、頭の傾きなど、自らを客観的に観察し、次の一本に反映させる。体を宙に飛ばした瞬間にBMXを回転させる超高難度テクニック「バイクフリップ」は、そのような循環と積み重ねで得た。「いわれてやるのはダメ。自分で考えないと上達はしない」。フィギュアスケートか、あるいはBMXをパートナーにしたダンスか。流れるように技を決めていくライディングは、論理的な分析があってこそなのだ。「大会は自分が何をやってもいい場所。技が決まると観客から反応が返ってくる。緊張するよりも、みんなをまた驚かせたいという思いの方が強いです」。13歳のあどけなさとは不釣り合いな肝の座った言葉に、未知の領域を見た気がした。

撮影◎嶋田健一 文◎編集部



復活の魂

2019年のJ2リーグが2月24日に開幕する。
アルビレックス新潟は京都サンガF.C.とのアウェー戦でスタートを切る。
「新潟らしさ」を追求する片渕浩「郎監督のもと、
昨季果たせなかったJ1昇格、
そして満員のビッグスタジアムの再現を目指して戦うシーズン。
選手は「新潟魂」をピッチで表現する。

撮影●嶋田健一

新潟の
サッカーに
胸を張れ。



キーマンインタビュー アルビレックス新潟 GK

野澤洋輔

YOSUKE NOZAWA

4万人の声援—夢の舞台 やれる「自信」を「確信」に変える

「夢だった」。GK野澤洋輔は11年ぶりの新潟への復帰をそう表現した。03年のJ1昇格決定時、J1参戦当初と新潟が勢いついていた時期に「顔」として君臨したレジェンド。今季はチーム最年長、そして新潟魂を体現できるベテランとして、夢にまで見た新潟のユニホームをまとい、かつてと同じ背番号「21」を背負って躍動する。

撮影●嶋田健一

—高知キャンプを経て、2月24日に開幕を迎えます。

「まずキャンプで体づくりをしつかりやって備えます。十分動くようになったら、日本人選手のプレーに合わせて、慣らしていかないと。Jリーグの選手の方が、シंगाポールの選手よりクオリティーが高いので。自分自身も質を上げなければならぬ。すべてにおいて感覚を戻さないといけない。ただ、逆に言うと、やれる自信があるのでそう考えることができる。その自信を確信に変えて開幕に臨まないと」

—自主トレにはいつから取り組んでいたのですか。

「11月下旬から、横浜の日産スタジアムの近くでやっていました。シंगाポールのシーズンは10月上旬には終わったので、自然とスタートは早くなりました。まだJリーグはシーズン中だけど、久々に日本でプレーするので天然芝や新潟の寒さと、いろいろ違いがありますから。準備もしておかなければならなかった」

—新潟でチームメイトと接して何か感じたことは。

「おとなしいかな（笑）。雰囲気はいい。みんなが会話している風景を見ると、でも、昇格するチームをつくるには、さらに一体感が必要だし、個性の強い選手の活躍が必要。そういうところに火をつけられたら」

—練習初日のあいさつで、チームメイトに伝えたことは。

「パッと見て、『ブラジル人選手と若手が多いな』と、『ブラジル人選手の活躍があって、若手が頑張ってる、そこでベテランと融合して、そうしてアルビレックスは愛されるチームになった』と。そういう話をしま

した。まあ、みんなで頑張っていこう、ということですけどね」

—チームメイトの反応は。

「今のチームにとって、俺は選手としては『初めまして』だし、チーム最年長だしね。俺が若かったときは、遠慮しなかったけど、山口素弘、上野優作。そういう人たちにもかみついていったから（笑）。今の選手は真面目、いい意味で。そういうことができると思う。だからこっちから雰囲気を出して、接していこうと思っています」

—GK陣の雰囲気は明るいのですか。

「俺が笑顔にしたのでね（笑）。みんなおとなしいから。GKはあんな面々でやっていかなければならないから、いい刺激を与えていきたいです」

—ベテラン選手たちと話は。

「最初は世間話程度から入って。ズミ（小川佳純）と話すのは初めてだけど、タツちゃん（田中達也）には昔（浦和在籍時）、よく決められたし、オールスターで一緒のチームになったこともあるし。（矢野）貴章は言うことないでしょう。11年ぶりに戻ってきて、彼らが自然に受け入れてくれたので、いい雰囲気になりました」

—開幕が近づいている中、あらためて整理した部分はありますか。

「一選手としてピッチに立つことを考えています。その中で自分の立ち位置とすれば、いろいろな立場からいろいろな人に接していければいいかな。プロ生活22年目のベテランとしての立場、昔の新潟を知る選手としての立場、1人のゴールキーパーとして。いろいろな立場から選手、サポーター、スタッフに接して一つにつなげたい



[新潟バレーボール特集]

明日の 目撃 が 打つ て！ NIIGATA VOLLEYBALL

「つなぐスポーツ」の真骨頂といわれるバレーボールに風が吹いてきた。
トップリーグ「V. LEAGUE」の始動。国際大会予選ラウンドの日本開催。
そして2020東京五輪。期待と希望の熱い風を感じながら、
新潟でバレーボールを愛して止まない
チームとプレイヤーを紹介する。

撮影◎近藤俊



スポーツ各界展望

Standard Eyes

新潟から未来を創れ

新潟県出身、または新潟にゆかりのある注目アスリートに迫る「Standard Eyes」。日本中を駆け回る選手あり、世界を股にかける選手あり、そして将来が楽しみな選手あり。私たちの身の回りは、かくも多くの素晴らしいアスリートであふれている。